神保美佳のメモ★ランダム ――― VOL.45

「ちくわの磯辺揚げ」と私たち

MEMO★RANDOM

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。
取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（バジリコ、07年）

今年もいよいよ師走の声とともに、慌ただしい日々がやって来ました。そういえば、昨年自民党が大勝した衆議院議員選挙からも、ちょうど一年。東日本大震災以降、2011年の「今年の漢字」に選出されたり、選挙のスローガンとしても声高に叫ばれていた「絆」という言葉も、さすがにそろそろ目や耳にする機会が減ってきたようです。

そんな中、改めて「絆」という言葉を感じるちょっとおかしな出来事がありました。11月中旬、大学時代に所属していたゼミナールの友人たちと同期会を開くことになり、当時授業の後毎週のように通っていた、都内の居酒屋に集まった時のことです。

我々の目的は、もちろん懐かしい話やそれぞれの近況を語りながら、旧交を深め合うこと。しかしそれに負けないほど大きなお目当てであったのが、学生当時みんなが必ず頼んでいた「ちくわの磯辺揚げ」というメニューを堪能することでした。このメニューはご存じの通り、ちくわに青のりを混ぜた水溶き天ぷら粉をまぶして油で揚げたもので、セルフのうどん屋などでもよく目にします。30年ほど前、件の居酒屋でそれを初めて目にした私を含め、友人たちも大変気に入って、毎回注文しては食べていました。また、後輩たちにもそれは受け継がれていき、ゼミ生の間で「ちくわの磯辺揚げ」というのは、重要な「キーワード」といっても過言ではない存在となっていったのです。

そして今回、いよいよ久しぶりにちくわの磯辺揚げが我々の前に届いた時、友人の1人が意外なことを口にしました。「実はこれ、だいぶ前にメニューから消えてたんだよ。でも、俺が以前他のメンバーと来た時、頼んで特別に作ってもらって当時の話をしたら、復活させてくれたんだ」「ええっ？　それって、本当？」みんなが大好きだったメニューがなくなっていたこと、それが友人らの訴えで復活したこと…何から何まで驚きでしたが、その後は目の前にある皿を見ながら「そういえば、昔より衣がふんわりしてないし、青のりも多すぎないか？」とか、「今のは、キャベツの千切りが添えてないから、ちょっとバランスが悪いね」等々、当時のものと比較した“論評会”が始まるなど、改めてメンバーの磯辺揚げに対する思いが伝わって来て、笑ってしまいました。

まぁ、このエピソードはたまたま居酒屋メニューにまつわる話でありましたが、家族や友人など、それぞれの内輪にしか通じない共有項目というのは、必ず存在するものです。そしてそれは、他人にとってはあまり関心のない物や人であったりするかもしれません。でも、例えば今回「ちくわの磯辺揚げ」がなかったら、すごく味気ない同期会になっていたかもしれませんし、そのお店に行かなかったかもしれません。さらに、いったん消えたメニューだったのに見事復活した、というのも何やら感動的。たかがメニュー1つといえど、それは深い「絆」をつなぐ力を持っているのだなぁ…と、変なエピソードながら、改めて実感した次第です。

同期会では、店を出る際「今後はしょっ中来て磯辺揚げを頼んで、メニューから消えないようにしよう！」…そんな風に盛り上がったのは、いうまでもありません。願わくば、その居酒屋もずーっと続いていきますように。皆様も、仲間や家族との間に必ず存在するであろう「絆」アイテムを、改めて見直してみてはいかがでしょうか。